

「東京科学大学病院と学ぶ医療の最前線」今後のスケジュール

年間スケジュール

オンライン

大岡山キャンパス

湯島キャンパス

7/16 木
16:00~17:00

大岡山キャンパス
西9号館2階
デジタル多目的ホール
(定員250名)



ネット依存外来
治徳 大介 先生
●「ネット依存外来」における
ゲーム・スマホ依存症対策



摂食嚥下リハビリテーション科
戸原 玄 先生
●これからの摂食嚥下リハビリテーション

9/17 木
16:00~17:30

オンライン
(定員500名)



ヘルスサイエンス R&D センター
小池 竜司 先生
●新薬実用化までの道のり
～治験・臨床試験の意義～



再生医療研究センター
関矢 一郎 先生
●半月板を理解しつつまでも歩ける膝へ
～日常生活の工夫と細胞治療～



がんゲノム診療科
池田 貞勝 先生
●「同じがん」でも治療が違う？
～遺伝子から選ぶオーダーメイド治療の最前線～

10/20 火
17:00~18:00

オンライン
(定員500名)



膠原病・リウマチ内科
保田 晋助 先生
●膠原病・リウマチ診療の最前線



脳神経外科
稲次 基希 先生
●家族を守るために、知っておきたい頭部外傷
～子どものスポーツ脳震盪から高齢者の転倒まで～
～年代別リスクと対応～

11/10 火
16:00~17:30

湯島キャンパス
鈴木章夫記念講堂
(M&D タワー2 階)
(定員500名)



大腸・肛門外科
網笠 祐介 先生
●進化する大腸がん治療



再建形成外科
田中 顕太郎 先生
●再建手術とは何か
東京科学大学に求められる形成外科診療



先端歯科診療センター
金澤 学 先生
●先端歯科診療センターでの歯科治療



2027 年

1/28 木
16:00~17:00

大岡山キャンパス
(会場未定)



総合診療科
橋本 正良 先生
●「老化と物忘れ」～元気な後半生を送るための
総合診療医とのかわり方～



息さわやか外来
有富 理左 先生
●「息さわやか外来」における
口臭診療及び口臭予防について

3/10 水
16:00~17:30

オンライン
(定員500名)



アレルギー疾患先端治療センター／義歯科・
歯科アレルギー外来
駒田 亘 先生
●歯科治療における金属アレルギー



アレルギー疾患先端治療センター／小児科
石川 史 先生
●小児食物アレルギーの予防と治療



ロボット未来創造センター
神田 元紀 先生
●ロボットとAIが研究をする時代に
人間は何をするのか

申込方法

- 参加費無料
- 各回定員500名

お申し込みは右の二次元バーコードもしくは、URLよりご確認をお願いいたします。

<https://www.tmd.ac.jp/medhospital/topics/seminar.html>

お問い合わせ

東京科学大学病院事務部病院総務課 総務グループ

Eメール：pr-hosp.adm@tmd.ac.jp

●参加費無料

※講演者や内容は変更になる可能性があります。

東京科学大学病院支援基金は、先進的医療の開発推進、診療体制の充実、病院施設・環境の整備を通じて、より良い患者サービスの提供を目指しています。同基金では最先端の医学・歯学、医療研究や最新の診断技術や治療法を広く社会に理解していただくために、市民公開講座を開催しております。

参加費は無料で、どなたでもご参加いただけます。最先端の医歯学研究や多くの皆様が気になる疾患に関する診断・治療法について、東京科学大学病院と一緒に学びませんか？

「東京科学大学病院メールマガジン」登録のご案内

特色ある医療のご紹介や、外来診療のご案内、イベントのお知らせなど、皆さまにより役立つ医療情報を毎月1回お届けしております。ご登録は無料で、いつでも配信停止が可能です。ぜひこの機会にご登録いただき、皆さまの健康管理にお役立ていただければ幸いです。今後とも当院をどうぞよろしくお願い申し上げます。



「東京科学大学病院メールマガジン」登録フォーム



広報誌「オアシス」第21号

OASIS

東京科学大学病院ニュース

vol.
21
2026

理念 世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸せに貢献する

- 基本方針
1. 患者中心の安全、良質な全人的医療を提供する
 2. 人間性豊かな医療人を育成する
 3. 高度先進医療を開発、実践する
 4. 社会に開かれた病院として、人々の信頼に応える
 5. 力を合わせて患者さんと仲間たちを守る



Contents

- 2 宮崎泰成新病院長のごあいさつ
- 3 病院長対談
- 4 新田浩首席副病院長のメッセージ
副院長・病院長補佐のご紹介
- 5 新設の専門外来ご紹介～頭蓋顎顔面センター
- 6 リニューアルしたセンターのご紹介
- 7 新任診療科長・部長・センター長・外来長のご紹介
- 10 ご存じですか？ がんリハビリテーション
- 12 病院支援基金・市民公開講座のご案内

病院長対談



ドクターカー出動5000回達成！

東京科学大学病院ERセンターのドクターカーが、2026年5月8日に出動5,000回を達成しました。2009年の運用開始以来、地域の救急医療を支えています。



東京科学大学病院を、ご寄附で支えてください。

東京科学大学病院支援基金は、先進的な医療の推進、患者さんの療養環境の充実、未来を担う医療人の育成などを支えるための基金です。皆さまからのご寄附は、より良い医療と患者サービスの向上につながります。東京科学大学病院の未来のために、温かいご支援をよろしくお願いいたします。

伝統を受け継ぎ、医療 と科学技術の融合で未来を切り拓く



新病院長のごあいさつ

宮崎 泰成（みやざき・やすなり）

東京科学大学病院 病院長

2026年4月より東京科学大学病院 病院長を拝命いたしました宮崎泰成です。

2020年からの新型コロナウイルス感染症の流行を経験し、多くの方々があらためて「健康の大切さ」を実感されたことと思います。当院においても、コロナ診療を通じて、患者さんはもとより、共に働く医療者や職員を病气から守ることの重要性をあらためて学びました。

当院には、優秀で高度な専門性を有する医師をはじめ、多職種の医療スタッフが在籍しており、チーム一体となって診療にあたっています。今後も患者さん中心の、安全で質の高い全人的医療を実践してまいります。また、地域の医療機関や医師会、一般開業医の先生方との連携を一層強化し、安心して患者さんをご紹介いただける病院であり続けたいと考えております。

さらに、2024年10月には、東京医科歯科大学と東京工業大学の統合により東京科学大学が発足し、2026年2月に国際卓越研究大学に認可されております。病院としても、医歯学と理工学の融合を一層推進し、革新的な医療の開発と実践の場となるよう努め、科学的根拠に基づく最先端の医療を皆さまに提供してまいります。

今後とも変わらぬご支援とご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。



藤井 靖久 東京科学大学理事（医療担当）

東京科学大学病院 泌尿器科教授（前病院長）

2026年4月、新しい病院長に就任した呼吸器内科教授の宮崎泰成先生と、東京科学大学医療担当理事を務める藤井靖久前病院長が、東京科学大学病院の新たな挑戦や未来について語り合いました。

**一病院長就任にあたってのお気持ちを
お聞かせください。**

宮崎 歴代病院長の先生方が築かれた伝統と実績を引き継ぐ重責を感じています。一方で、東京科学大学として新たなスタートを切った今だからこそ、病院の更なる発展に挑戦できる大きなやりがいも感じています。患者さんに信頼され、職員が誇りを持って働ける病院づくりを進めていきたいと思っています。藤井先生は病院長時代を振り返っていかがでしょうか。

藤井 病院長として、ポストコロナ対応や大学統合後の病院運営の基盤づくりに力を注いだ期間でした。医科と歯科の連携をさらに深めるとともに、高度急性期医療の充実や診療体

宮崎 泰成 病院長

東京科学大学病院 呼吸器内科教授

制の強化に取り組んできました。厳しい財政状況の建て直しにも尽力し、健全な診療体制を維持することに努めました。

**一現在の大学病院を取り巻く環境を
どのように見えていますか。**

藤井 医療を取り巻く環境は大きく変化しています。医療人材の確保、働き方改革への対応、物価高騰による経営への影響など、大学病院が直面する課題は少なくありません。その中でも、高度医療、研究、教育という国立大学病院の使命を果たし続けることが重要です。

宮崎 加えて、医療技術の進歩や社会のニーズの変化への対応も求められています。患者さんに最適な医療を提供するためには、多職種が連携し、それぞれの専門性を最大限に発揮できる環境づくりが欠かせません。

一東京科学大学病院ならではの強みは何でしょうか。

宮崎 最大の強みは、医歯学と理工学が同じ大学の中にあることです。診療現場の課題を研究につなげ、その成果を再び

患者さんに還元するサイクルを加速できる環境があります。AIやロボティクス、医療機器開発など、理工学の知見を活用した新しい医療の創出に大きな可能性を感じています。

藤井 東京科学大学の誕生によって、医療と科学技術の融合はさらに進むでしょう。これまで以上に研究開発力が高まり、世界に発信できる医療イノベーションが生まれることを期待しています。病院はその重要な実践の場になるはずです。

**一国際卓越研究大学として、病院に期待される
役割も大きくなりますが。**

藤井 大学病院には、優れた研究成果を生み出すだけでなく、それを実際の医療へつなげる役割があります。基礎研究から臨床応用までを一貫して担うことで、日本発の医療技術や治療法を世界へ発信していきたいと考えています。

宮崎 診療、研究、教育の三つを高いレベルで実現することが重要です。患者さんに最先端の医療を提供するとともに、次世代の医療人を育成し、新しい知を創出する。その循環をさらに強化していきたいと思います。

一最後に、患者さんへのメッセージをお願いします。

宮崎 病院は多くの職種の力によって支えられています。それぞれが専門性を発揮し、互いを尊重しながら力を合わせることで、より良い医療を実現できます。職員の皆さんとともに、患者さん中心の医療をさらに発展させていきたいと思っています。

藤井 東京科学大学病院は、職員一人ひとりの情熱と努力によって成長してきました。今後も医療担当理事として病院を支えながら、大学と病院が一体となって発展できるよう努めてまいります。



首席副病院長の メッセージ

新田 浩 (にした・ひろし)

東京科学大学病院 首席副病院長

本院の歯系診療部門は、1928年の東京医科歯科大学創立以来、独立した歯学部附属病院としての歴史を歩んできましたが、2021年10月に医学部附属病院と統合し、2024年10月からは「東京科学大学病院 歯系診療部門」として、新たな歩みを進めています。

本院は「世界最高水準のトータル・ヘルスケアの提供」を理念に掲げ、患者中心の全人的医療の実践、高度先進医療の開発、人間性豊かな医療人の育成に取り組んでいます。

歯系診療部門では、患者さんの多様なニーズに応えるため、「むし歯科」「歯周病科」「義歯科」「口腔外科」などの一般診療に加え、多様な専門外来や先端歯科診療センターを整備し、患者さん一人ひとりに対する包括的な医療の提供に努めています。

本院は特定機能病院として高度医療を担うとともに、歯科医師の教育・研修機関として指導歯科医のもとで学生の臨床実習や歯科医師の臨床研修が行われており、患者さんのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

今後も医学・歯学・理工学の融合を通じて新たな医療価値を創出し、社会に開かれた病院として人々の健康と幸福に貢献してまいります。また、患者さんとの信頼関係を大切に、安全で質の高い医療の提供に一層努めてまいります。

首席副病院長の新田先生に、
今後の抱負について伺いました。



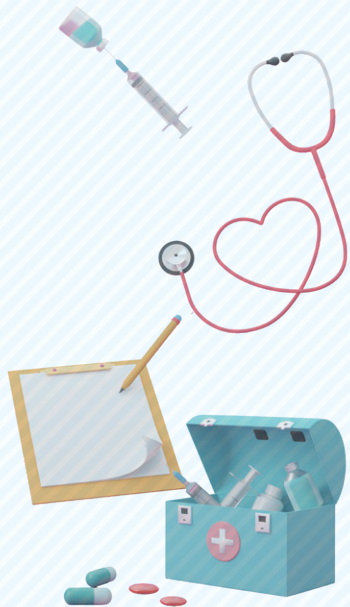
副病院長・病院長補佐のご紹介

副病院長

医療安全	吉井 俊貴
診療・地域連携	森 毅彦
働き方改革	堤 剛
手術・先進医療	大野 京子
診療・臨床研究(歯系)	岩田 隆紀
看護・サービス・環境整備	井桁 洋子
経営改善	秋葉 泰樹

病院長補佐

診療整備・内科	笹野 哲郎
診療整備・外科	絹笠 祐介
薬剤	永田 将司
診療報酬	藍 真澄
医療連携・広報	田村 郁
臨床研究	小池 竜司
安全管理	工藤 篤
感染	具 芳明
救命救急	森下 幸治
集中治療	若林 健二
災害	植木 穰
ウイルス制御	武内 寛明
医療戦略	鐘江 康一郎
診療整備(歯系)	金澤 学
病棟・手術・医歯連携(歯系)	原田 浩之
教育・地域連携(歯系)	戸原 玄
災害・診療報酬(歯系)	樺沢 勇司



新設の専門外来ご紹介 頭蓋顎顔面センター

医系診療部門 形成・美容外科長

森 弘樹 (もり・ひろき)



成長に寄り添い、頭蓋顎顔面の先天性疾患に対する 継続的で包括的な医療を提供します

当院形成外科(形成・美容外科および再建形成外科)は、初代教授である秦維郎先生が唇顎口蓋裂および小耳症の診療を専門として以来、顎顔面領域の先天性疾患に対する治療を重要な柱の一つとして発展してまいりました。

このたび、歯科の顎顔面外科学分野に形成外科医でもある加持秀明先生が赴任されたことを契機に、近年の高度化・専門化する頭蓋顎顔面診療のニーズに応えるため、「頭蓋顎顔面センター」を設立いたしました。

本センターでは、唇顎口蓋裂、頭蓋縫合早期癒合症、Treacher Collins症候群などの先天性疾患を中心に、多職種が連携した包括的な診療体制を構築し、成長段階に応じた継続的かつ質の高い医療を提供してまいります。外来は医科棟3F形成・美容外科外来にて第1、3水曜9-10時に開設しております。

今後も教育・研究・診療を通じて、頭蓋顎顔面診療のさらなる発展に寄与し、次世代の人材の育成に貢献してまいります。



歯系診療部門 顎口腔変形疾患外来長

加持 秀明 (かもち・ひであき)



医科・歯科の多診療科連携により、 頭蓋顎顔面領域の先天性疾患に最適な医療を提供します

頭蓋顎顔面センターは、頭蓋・顎・顔面・口腔領域における先天性疾患に対し、医科・歯科が同じ基盤のもと連携し、包括的な診療を提供することを目的として開設されました。本領域は、咀嚼・嚥下・発音といった機能と、顔貌の調和という整容の双方が密接に関わる点に特徴があります。当センターでは、医科診療部門(形成・美容外科、再建形成外科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、小児科、麻酔科、集中治療部など)と、歯科診療部門(口腔外科(顎顔面外科学)、矯正歯科、小児歯科、言語治療外来、顎顔面補綴外来など)が緊密に連携し、成長発達を見据えた長期的視点での治療を行っています。

医学部と歯学部が併設された関東唯一の大学病院として、その強みを活かし、医科歯科連携の実践拠点として質の高い医療の提供と教育・研究の発展に貢献してまいります。



リニューアルしたセンターのご紹介



リプロダクションセンター

石川 智則 センター長 (いしかわ・ともり)

より快適に、より包括的に リプロダクションセンターが新たに始動

「リプロダクションセンター」は、2026年5月11日、B棟16階にリニューアルオープンいたしました。

これまで当センターは病院3階の外来エリアと8階の病棟エリアに分かれて診療を行っていましたが、このたび16階に診察機能を集約しました。外来診療や生殖補助医療(採卵・胚移植)に加え、子宮鏡や流産の日帰り手術にも対応可能です。東京スカイツリーをはじめとする街並みを一望できる待合室や、落ち着いた雰囲気の診察室で患者さんをお迎えいたします。

これからもリプロダクションセンターは、“今すぐ“または”将来“の妊娠・出産を希望する患者さんに対し、妊娠成立のみならず、安全な分娩や出産後の健やかな生活までを治療のゴールに見据え、専門的かつ包括的な生殖医療を提供してまいります。

長寿・健康人生推進センター

岡本 師 センター長 (おかもと・つかさ)

「5つの安心」で支える、大学病院ならではの健康管理

長寿・健康人生推進センターは、人間ドックを含めた大学病院において健康管理を行うセンターです。健診業務を開始し10周年という節目に改修工事を実施し、より快適で、より充実した健診環境を整えました。

当センターの特色としては、「5つの安心」①あなたに適切なプログラム、②プライバシーの確保された専用個室、③大学病院専門医による精度の高い診断、④専門診療科との連携とフォローアップ、⑤歯科も含めた健康管理、を大切にしています。当センターで発見された異常を、適切なタイミングで大学病院の専門診療につなぐことができるのは、受



検者にとって安心であり、大学病院での受診を希望される方のニーズに合っていると考えます。

大学病院としての特徴を生かして、高い専門性と幅広い総合力を背景に、質の高い健康管理を提供いたします。ぜひ当センターを健康管理の拠点としてご活用ください。



2026年4月より長寿・健康人生推進センターのセンター長を拝命いたしました。大学病院の特徴を生かし、高い専門性と総合力を背景に、質の高い健康管理を提供したいと考えております。当センターの特色は、大学病院内の一部門であることから、各専門診療科との連携がスムーズであることが挙げられます。また、精度の高い検査機器のみではなく、その結果を解釈し方向性を示す医師も非常に優れています。ぜひ当センターを健康管理の拠点としてご活用ください。また、皆様のご紹介をお願いします。

新任診療科長・部長・センター長・外来長のご紹介



末梢血管外科 山本 洋平 科長

2026年4月に末梢血管外科の診療科長に就任いたしました山本洋平と申します。血管外科は脳と心臓以外の全身の血管の外科的治療を担当する専門診療科です。私たちは血管の病気を診療し、患者さんが安心して健康な生活を送れるよう日々努めています。

当科は血管外科として国内でも有数かつ歴史がある診療科であり、幅広い診療を行っていることが特徴と自負しております。胸部・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患(下肢閉塞性動脈硬化症)、下肢静脈瘤をはじめとする静脈疾患、透析用内シャント作成およびシャント関連合併症など、common diseaseから稀な疾患まで、専門的な検査や治療が可能です。また、2023年10月に新設された病院C棟にハイブリッド手術室が設備され、質の高い診療を標準的に提供できる環境が整ったことも強みです。

一般的には治療が難しいとされた患者さんや緊急手術にも対応しています。血管の病気に関して些細なことでも構いませんので相談、ご紹介いただけますと幸いです。



呼吸器外科 石橋 洋則 科長

2026年4月より呼吸器外科診療科長に就任いたしました石橋洋則です。肺・縦隔・胸壁など胸部領域の疾患に対し、精度の高い最新の呼吸器外科手術を安全・確実かつ低侵襲に提供しています。全手術の85%以上は最新のロボット支援手術を含む胸腔鏡下手術を基本とし、疼痛軽減と早期回復を実現しています。

患者さんの20%が80歳以上であり、糖尿病・肺気腫・心疾患・腎機能低下など多くの並存疾患を有する方にも手術を積極的に行っています。特に難治性胸部悪性腫瘍である局所進行肺癌に対しては、呼吸器内科・放射線治療科とチームとなり免疫チェックポイント阻害剤・分子標的薬・抗がん剤や放射線治療と、気管支形成術・肺動脈形成術など高難度手術を組み合わせた集学的治療を数多く行っています。また胸膜中皮腫には肺を温存する胸膜摘除を含めた集学的治療、その他、炎症性肺疾患、難治性気胸、胸壁腫瘍、膿胸など多岐にわたる胸部疾患にも迅速に対応し、最適な外科治療・内視鏡治療を行っていますのでお気軽に連絡いただければ喜んで対応させていただきます。よろしくお願い申し上げます。



脳神経外科 稲次 基希 科長

東京科学大学脳神経外科では、脳腫瘍、脳血管障害、外傷、機能的脳神経外科など、脳に関わる全分野に対応しています。大学病院の特性として、他科と連携し難易度の高い疾患にも幅広く対応しています。地域の最後の砦として、いつでも、どのような疾患にも対応することを心掛けています。

発症から治療までの時間が重要な脳卒中治療は、救命救急センターとの連携により24時間体制で受け入れています。血管内治療科とともに開頭手術、血管内手術のいずれにも対応しています。また、てんかん、もやもや病、頭蓋底腫瘍は他科との連携により、多角的で高難度の治療が可能ですので、是非お気軽にご相談ください。



脳神経内科 三澤 園子 科長

2025年5月1日付で脳神経内科教授・診療科長に就任いたしました三澤園子と申します。脳神経内科は、脳・脊髄・末梢神経・筋肉にかかわる病気を幅広く診療する内科です。しびれ、頭痛、めまい、物忘れ、力が入らない、歩きにくい、ふるえるなど、日常生活の中でみられる身近な症状から、脳卒中や認知症などのよくある病気、神経難病のように専門的な診断や治療を必要とする病気まで、幅広く対応しています。

神経の病気は症状が多彩で、診断までに時間を要することもあります。丁寧な診察と必要な検査を通じて、患者さん一人ひとりに適した最善の医療を提供することを大切にしています。今後も、地域の医療機関との連携を一層深め、患者さんが安心して



新任診療科長・部長・センター長・外来長のご紹介

てご相談いただける診療科を目指してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



放射線診断科
岸野 充浩 科長

2026年4月より、放射線診断科の診療科長に就任いたしました。放射線診断科は、CT、MRI、核医学検査、超音波による画像診断に加え、画像ガイド下治療（IVR）や放射性同位元素を用いた治療（セラノスティクス）を通じて、診断と治療の両面から医療に貢献する中央診療部門です。最新のフォトンカウンティングCTを備えた画像診断センターでは土曜日検査も実施し、利便性向上に努めております。

今後は、最新の診断機器やAIソフトウェアを適切に活用し、各診療科と連携のもと先進的医療の発展に寄与するとともに、適時・適切な画像診断を着実に積み重ねることで、病院全体の医療の質向上と安全確保に貢献してまいりたいと思います。



光学医療診療部
岡本 隆一 部長

この度、光学医療診療部の部長を拝命いたしました岡本隆一と申します。内視鏡技術の急速な進歩により、食道・胃・大腸に加え、深部小腸に至るまで全消化管への到達が可能となり、さらに特殊な照明や画像処理・拡大観察によって、通常の光ではとらえられない微細な変化も明確に観察できるようになりました。

当診療部では年間約1万件の内視鏡検査・治療を行うとともに、バルーン内視鏡・超音波内視鏡などを用いた最先端の技術も積極的に導入しています。「見えるものはもちろん、見えないものも見えるようにする」という理念のもと、正確な診断と体への負担を最小限に抑えた治療を追求してまいります。また、消化器内科や潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センターをはじめ



とする関連診療科と緊密に連携し、患者さん一人ひとりに最善の医療を提供できるよう、スタッフ一同全力で取り組んでまいります。



検査部
佐々木 宏治 部長



検査部では、東京科学大学の理念のもと、患者さんに安心して医療を受けていただけるよう、迅速で正確な臨床検査の提供に努めております。ISO 15189の認定を受け、検査の精度と信頼性を国際水準で担保し、24時間体制で安定した検査サービスを提供することで診療を支えています。検査結果は診断や治療方針の決定に直結する重要な情報であり、その一つひとつに責任を持って取り組んでおります。また、安全管理の徹底と継続的な質の向上に努め、安心して検査を受けていただける体制づくりを進めております。

さらに、各診療科や関係部門と密に連携し、検査データの適切な解釈と活用を支援することで、患者さん一人ひとりに最適な医療の実現に貢献してまいります。加えて、最新の検査技術の導入や研究開発にも積極的に取り組み、その成果を医療の現場に還元することで、より質の高い診断と治療につなげてまいります。今後も信頼される検査部を目指し、職員一同努力を重ねてまいります。



クリーンルーム歯科外来
黒嶋 雄志 外来長

2026年4月よりクリーンルーム歯科外来長を拝任いたしました黒嶋雄志と申します。同時期より感染制御部副部長も拝命し、歯系診療科の感染対策に従事しております。また、顎口腔腫瘍外科学分野に所属し、口腔外科診療を行っています。

クリーンルーム歯科外来は、院内感染のリスクを減少させることを目的とし、既に感染症を有する方の歯科診療、あるいは免疫抑制剤の使用等により免疫機能が低下し、感染症に罹患しやすくなっている方の歯科診療を、防御環境の概念の基で実施す

るための院内共同利用施設として設立されました。一般的にはこのような患者さんに対しても、通常の歯科診療で行っている標準予防策で十分ではありますが、新型インフルエンザ等の特に注意が必要な感染症を有する患者さんの歯科治療を行う場合、当外来ではさらに陰圧個室を診療室とすることで、感染症の拡大を防止する機能を備えています。



放射線部
吉村 亮一 部長

2026年4月より放射線部長を拝命いたしました。放射線部には現在、50名以上の診療放射線技師が所属し、病院内のX線単純撮影、透視、CT、リニアックなどの放射線機器やMRIを含めた画像機器の操作や管理、画像の質や放射線治療の質の保証と管理、また放射性同位元素を含め放射線を安全に利用するための放射線管理、病院職員の健康に関わる放射線被ばく管理に関わっています。我々は病院の縁の下でどれだけ力を発揮できるかが、病院全体の医療の質や安全性の向上に影響すると自負しております。

患者さん一人ひとりと接する機会は限られていますが、多くの方にご利用いただいておりますので、気づかれたことや改善した方が良い点などありましたら是非、ご意見をお寄せください。



快眠センター
立石 知也 センター長

このたび快眠センター長を拝命いたしました。日頃より当センターをご利用いただき、心より御礼申し上げます。睡眠に関するお悩みは、いびきや日中の眠気にとどまらず、生活の質や生活習慣病、心血管疾患など全身の健康に深く関わります。当センターでは、睡眠時無呼吸症候群に対するCPAP療法やマウスピース（口腔内装置）などの治療を、検査結果に基づき患者さん一人ひとりに合わせてご提案しています。

また、肥満に対しては内科と連携し、体重管理を含めた包括的



な治療を行っております。さらに、不眠や不安などの睡眠の悩みには精神科とも協力し、こころとからだの両面から支援いたします。私はこれまで喘息や間質性肺炎などの呼吸器疾患の診療に携わってまいりました。その経験を生かし、呼吸と睡眠の両面から患者さんに寄り添った医療を提供してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



血液浄化療法部
飯盛 聡一郎 部長

今年度より血液浄化療法部の部長を拝命いたしました飯盛聡一郎と申します。血液浄化療法は、ダイアライザー等の特殊なフィルターを通して血中の老廃物や毒素、病因物質を取り除く、多くの病態において生命維持に極めて重要な治療です。

当部では、腎臓内科医師、臨床工学技士、看護師の多職種チームが各診療科と緊密に連携し、幅広い疾患に血液浄化の側面からアプローチしています。末期腎不全や急性腎障害に対する各種血液透析や持続的緩徐式血液浄化（CRRT）をはじめ、自己免疫疾患等の難治性疾患に対する血漿交換、重症下肢虚血への血液吸着療法（レオカーナ）といった専門性の高い「アフレルシス療法」も積極的に実施しています。今後もチーム一丸となって最新の医療ニーズに応え、患者さんへ安全で質の高い医療の提供に邁進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



歯科衛生保健部
大沼 由季 部長

2026年4月より歯科衛生保健部の部長に就任いたしました大沼由季と申します。歯科衛生保健部では、口腔保健を担う医療人として、患者さんの健康と生活の質（Quality of life）の向上に貢献するため、多様化する歯科医療ニーズに対応し、歯科衛生士の専門性を活かした口腔健康管理の実践に取り組んでいます。歯周病を始めとする歯科疾患の予防だけではなく、歯科病棟などと連携し、口腔領域の疾病に対する周術期口腔健康管理を行い、合併症予防や術後回復の促進、全身状態の改善に寄与するなど、チーム医療の一員として活動しています。患者さんが生涯を通じて歯と口腔の健康を維持し、豊かな人生が送れるよう、オーラルフレイル対策や疾病の重症化予防にも積極的に取り組み、ライフステージや全身状態に応じた継続的な口腔健康管理を行っています。

また、次世代の歯科衛生士育成や、院内の感染対策、医療安全にも関与し、安心安全な診療の提供にも寄与しています。今後も歯科だけにとどまらず、広い視野を持ち、病院や社会に貢献して参りたいと思います。

ご存じですか？ がんリハビリテーション ～治療を支える体づくりのすすめ～

がんの治療を続けるためには、『体力維持』も大切です。東京科学大学病院リハビリテーション部が、がん治療を支える体づくりのポイントをご紹介します。

Q1 体力はがん治療に役立つ？

がんの治療を続けていくために体力が維持されていると、手術後の回復が早くなったり、抗がん剤治療を続けやすくなったり、退院後の生活へスムーズに戻りやすくなったりすることが知られています。一方で、がんや治療の影響によって体力や筋力は少しずつ低下してしまうことがあります。まずは、ご自身の体の状態を振り返ってみましょう。右記に1つでも当てはまる方は、がんリハビリテーションがお役に立てるかもしれません。

がん治療中の 体力チェック

- ☐ 最近疲れやすい
- ☐ 歩く距離が短くなった
- ☐ 階段がづらい
- ☐ 食欲が落ちている
- ☐ 筋力が落ちた気がする

Q2 サルコペニアって何？

「筋肉の減少」は治療の大敵です。がんや治療の影響で筋肉が減る状態を「サルコペニア」といいます。筋肉が減ると、疲れやすい、転びやすい、治療がつらくなる…などを経験することがありますが、この状態は、「運動＋栄養」で予防できます！サルコペニアにならないようにチェックして予防しましょう。

あなたはいくつ当てはまりますか？



サルコペニア チェック

- ☐ 最近、疲れやすくなった
- ☐ 歩くスピードが遅くなった気がする
- ☐ 階段の上り下りがづらい
- ☐ 椅子から立ち上がる時に手をつくことが増えた
- ☐ 買い物袋など重い物を持つのが大変になった
- ☐ 外出する機会が減った
- ☐ 食欲が落ちている
- ☐ 半年で体重が減った
- ☐ 転びそうになることが増えた
- ☐ 筋肉が減った気がする



結果の評価

0～2個

→ 今の体力を維持していきましょう！

3～5個

→ 筋力や体力が低下し始めているかもしれません。運動習慣や栄養状態を見直してみましょう。

6個以上

→ サルコペニアの可能性あります。主治医やリハビリスタッフに相談してみましょう。

Q3 がん治療中に運動していいの？



「治療中は安静にしていた方がいいのでは？」と思う方も少なくありません。しかし近年では、体調に合わせて適度に体を動かすことが、治療や回復に役立つことが分かっています。

運動には、右記のようにさまざまな効果があります。もちろん、無理をしたり頑張りすぎたりする必要はありません。大切なのは、体調に合わせて少しずつ体を動かすことです。

- ✓ 体力の維持
- ✓ 筋力の維持
- ✓ 疲労感の軽減
- ✓ 気分転換やストレス解消
- ✓ 睡眠の質の改善

Q4 どんな運動をすればいいの？

運動といっても、特別なスポーツやきついトレーニングをする必要はありません。大切なのは、ご自身の体調に合わせて無理なく続けることです。まずは、今日から始められる3つの習慣をご紹介します。

1. ストレッチ

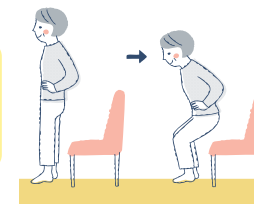
まずは背伸びや肩回しから始めてみましょう。体がだるい日や疲れている日は、ストレッチだけでも十分です。筋肉や関節をやわらかく保ち、気分転換にもつながります。



2. 筋力トレーニング

おすすめは、歩く・立つ・階段を上るために大切な脚の筋肉を鍛える運動です。週2～3回を目安に、無理のない範囲で続けましょう。

- ・椅子からの立ち座り
- ・スクワット
- ・足上げ運動



3. 有酸素運動

心肺機能や体力の維持には有酸素運動がおすすめです。

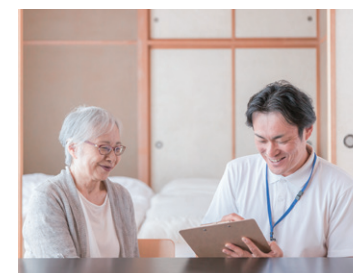
「少し息が弾むかな」と感じる程度で十分です。まずは短い時間から始めてみましょう。

- ・散歩
- ・ウォーキング
- ・自転車



Q5 食事や栄養面で注意することは？

筋肉は運動だけでは増えません。筋肉をつくるためには、運動と栄養の両方が必要です。「たんぱく質だけ食べればよい」「炭水化物は控えた方がよい」と考える方もいますが、極端な食事制限はおすすめできません。主食・主菜・副菜をバランスよく食べることが、体力や筋力の維持につながります。食欲が落ちているときは、医師や管理栄養士に相談してみましょう。



Q6 肺がん手術を受ける予定ですが運動はダメ？

肺がんの手術を予定している方は、手術前から体づくりを始めることが大切です。

- ・呼吸練習
- ・胸のストレッチ
- ・ウォーキング

←などを行うことで、術後の回復を助けることが期待できます。詳しくは主治医やリハビリスタッフにご相談ください。



東京科学大学病院リハビリテーション部から

「治療のために休む」だけでなく、「治療のために動く」ことも大切です。「昨日より少し歩く」「少し体を伸ばす」…その小さな積み重ねが、治療を支える大きな力になります。私たちリハビリテーションスタッフは、患者さん一人ひとりに合わせた体づくりをお手伝いしています。気になることがあれば、どうぞお気軽にご相談ください。

